

補助事業番号 2023P-382

補助事業名 2023年度 人間の多様性を学ぶ福祉教育プログラムの開発に関する研究 補助事業

補助事業者名 琉球大学 人社会学部人間社会学科波名城研究室 波名城翔

1 研究の概要

全国の学校教育の中では福祉教育が実施されているが、多くが車椅子・アイマスク体験などの当事者体験や福祉事業者等の講話であり、共生社会や多様性などが社会に求められてからも福祉教育は「高齢」や「障害」という制度の中にある福祉を主軸に置かれたまま続いてきた。

今回の研究事業では、共生社会づくりに向けて新たな多様性を学ぶ福祉教育プログラムとして、ヒューマンライブラリーという個性との対話プログラムを小、中、高、大学生向けに実施し、アンケート実施し効果を検討した。

小学校、高校、大学生へ実施し、アンケートを集計した結果、自己肯定感が高まったこと、他者理解が深まったことが考えられた。特に「障害のある人」などのラベルから個人へという記述がみられ、多様性の理解が進むことが考えられた。

効果は十分に感じられたものの、福祉教育の中で実施するという点において学校側の受け入れが進まない現状があった(中学校では実施できなかった)。学校現場との意見交換において学校現場も福祉教育を実施することに苦慮していることがあげられたことから、今後は学校と福祉教育提供者とのプラットフォーム等を立ち上げるなど行い、お互いの壁を取り除き実施しやすい運用が必要であると考えられた。

2 研究の目的と背景

社会構造や認知されている個性の幅が変化しているのも関わらず、学校現場で行われている福祉教育は、車いす体験・福祉関係者の職業講話・障害者や高齢者との交流等の実施が多く、長い間プログラムは変化していない。また、福祉教育の相談窓口である県・市町村の社会福祉協議会でも福祉現場の職員を紹介・福祉用具のレンタルに留まっている現状がある。社会ニーズとして地域共生社会の必要性や、学校内にある多様性を認める文化づくりは叫ばれてはいるが、まだまだ未着手状態であると考えられる。

本研究ではヒューマンライブラリーを活用した福祉教育プログラムを導入し、学校現場に対して効果検証を実施、検証データをもとに、子どもの成長に合わせた福祉教育プログラム開発を行い、従来からある福祉教育に留まらない、共生社会の実現に向けての福祉教育プログラムを構築することを目的とした。

3 研究内容

(1)教育・福祉分野の専門家でのプログラムの検討

教育(教職大学院教授)・福祉分野(社会福祉士協議会)、プログラム開発の専門家、ヒューマンライブラリー実施団体及びヒューマンライブラリー話者にてヒューマンライブラリーを実施したうえで、プログラムの検討を行った。



図1 検討会の様子



図2 ヒューマンライブラリー体験

(2)ヒューマンライブラリー教材の開発

小学生向けの教材としてプログラム開発専門家、ヒューマンライブラリー実施団体、ヒューマンライブラリー話者等で教材を開発した。



図3 開発した教材①



図4 開発した教材②

(3)学校現場におけるヒューマンライブラリーの実施

福祉教育の一環として実施するため、基本的には学校から市町村社会福祉協議会に福祉教育の依頼があった際にプログラム委託先のヒューマンライブラリーおきなわが地域に住む話者等をコーディネートし実施した。中学校では実施はできなかったが、小学校5校、高校3校、大学2校で計495人に実施した。



図5 小学校での実施の様子①



図6 小学校での実施の様子②



図7 高校での実施の様子



図8 大学での実施の様子

4 本研究が実社会にどう活かされるかについての展望

本研究では福祉教育の一環として小学校、高校の生徒、大学生にヒューマンライブラリーを実施した。社会人になる前、特に小学生の段階から多様性を理解する福祉教育プログラムを実施することは相手の理解だけではなく、自己肯定感を高めることにつながると考えられた。また、実施した教員からの意見交換において、家庭でも多様性を理解する発言があり、保護者から感謝されたという話もあったことから生徒や学生をとおして家庭まで理解が進むと考えられる。

ヒューマンライブラリーが教育現場で実施されることで、多様性の理解が進み、共生社会の実現へ向けた大きな一歩につながると考えられる。

5 教歴・研究歴の流れにおける今回研究のいちづけ

私の研究は精神障害者の支援であり、精神障害分野においてはいまだに差別・偏見が根強く残っており、全国的にさまざまな実践やプログラムが開発されている。ヒューマンライブラリーは差別・偏見を払しょくするプログラムであることから、精神障害への理解を進める点においても今回の研究の位置づけとしては有効であったと考えられる。

6 本研究に関わる知財・発表論文等

波名城翔,社会福祉を学ぶ学生を対象としたヒューマンライブラリーの効果, 琉球大学教育センター 報 (26) 89-100 2024.

7 予想される事業実施効果

今回、実施した学校においては今後も継続して実施していきたいという意見や事前学習や共同でのプログラム(ヒューマンライブラリーのあとに一緒に給食を食べる、一緒に活動をする)と組み合わせることで更なる理解が進むという意見もありヒューマンライブラリーを中核として一つの取り組みとなる事が期待できる。

更に、小学校にヒューマンライブラリーを実施した事例は全国的にも前例がなく、全国の実施団体や教育現場から注目されており、今回の取り組みが全国に広がる可能性が期待できる。

8 補助事業に係る成果物

(1)補助事業により作成したもの

事業委託先(ヒューマンライブラリーおきなわ)が委託事業一部として製作(1000部)。



(2)(1)以外で当事業において作成したもの

なし

9 事業内容についての問い合わせ先

所属機関名: 国立大学法人琉球大学 人文社会学部(ジンブンシャカイガクブ)

住所: 〒903-0213(半角)

沖縄県中頭郡字千原1番地

担当者: 専任講師 波名城 翔(ハナシロ ショウ)

担当部署: 人間社会学科社会学講座社会福祉コース

(ニンゲンシャカイガツカシャカイガクコウザシャカイフクシコース)

E-mail: hsho@hs.u-ryukyu.ac.jp

URL: <https://sites.google.com/view/hanasiorosyou/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>